

北海道留寿都農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

| 全国の農業高校の行動計画 | | 学校において令和元年度に重点化した取組の実現状況・課題 | | | |
|-----------------------|---------------------------|--|---|---|----|
| 「5つの基本方針」 | 「10の行動計画」 | 行動計画の中で重点化する取組 | 実現状況 | 課題 | 評価 |
| I グローバル教育で人材を育てる学校 | ①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。 | (1) アグリマイスター顕彰制度を推奨して、農業教育の質を向上させます。 (2) 農業クラブ活動を充実させ、農業教育の活性化を目指します。 | (1) 日本農業技術検定3級受験者の合格及びアグリマイスター顕彰制度の推奨を促し、農業教育の質の向上に努めた。 (2) 意見発表・実績発表大会で地域大会入賞及び鑑定競技で全国大会出場を果たすことが出来た。 | 日本農業技術検定3級の合格率80%以上を目指すと共に資格取得を促す。 各農業クラブ大会での入賞を目指すと共に、校内・地域活動に積極的参加よう体制を強化する。 | 5 |
| | ②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。 | (1) 教科指導の充実を図り、国際教育の推進を図ります。 (2) G A Pの可能性を模索します。 | (1) 農業クラブ活動及び授業に於いて留学生との交流活動及び地域企業と企画し交流体験活動を実施した。 (2) G A Pの必要性について授業で導入し、生徒理解に努めた。 | 教科間連携を密にし、国際的視野を広げる学習に努めると共に地域企業と連携し、学習の充実を深める。 G A Pへの理解を深め、時代に対応した農業学習への取り組みのため活用する。 | 4 |
| II 地域社会・産業に寄与する学校 | ③「地域農業の生産を支える」教育を行います。 | (1) 地域の農業生産を理解し、生産技術の向上を図ります。 (2) I C Tの活用を模索、検証を図ります。 | (1) 地域性を重視した専攻班活動に努め、課題解決に向けた農業学習を展開した。 (2) I C T教材の研修へ参加し、生徒への情報提供、授業に生かすことができた。 | 地域理解を深め課題解決や振興に努めたプロジェクト学習を推進する。 I C Tの有効活用を模索し、講習や知識理解に努め、今後の農業学習に役立てる。 | 3 |
| | ④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。 | (1) 地域農業と連携し、農業及び、農業関連産業人の育成を図ります。 | (1) 農家委託実習を通して、地域基幹産業である農業への理解を深めることができた。 新規受け入れ先を開拓することができた。 | 新規農家委託実習受入先を開拓する(継続)。 地域産業との連携に努め、学習及び活動を推進する。 | 3 |
| III 地球環境を守り創造する学校 | ⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。 | (1) 人と環境との関わり、地域環境について化学的視点を踏まえ、環境教育を推進します。 (2) 地域の環境美化活動に参加し、保全活動を推進します。 | (1) 専攻班活動を中心に、地域及び各科目との連携から環境を捉えた活動を積極的に出来た。 (2) 花いっぱい運動により、農業学習、地域環境美化活動を実施できた。 | 農業学習を通し、地域理解を深め、環境学習へ生かす取り組みを推進する。 地域の関係機関との連携を強化し発展に努める(継続)。 | 4 |
| | ⑥「食農」教育を推進します。 | (1) 各機関との農業体験交流を積極的に推進し、食農教育の充実を図ります。 | (1) 保育所・小学校との連携強化により、内容の充実した取り組みが実施できた。 | 農業学習を基盤とし他校との交流活動を通して、生徒個々の主体性の向上に努める(継続)。 | 4 |
| | ⑦「地域資源を活用する」教育を行います。 | (1) 地域農業を理解し、農業教育の推進を図ります。 | (1) 各教科学習・専攻班活動、委託実習を通して、地域の先進的な取り組みを農業教育に生かすことが出来た。 | 各教科間の連携を強化し、教科横断的な農業学習を展開し、学習を深める。 | 3 |
| IV 地域交流の拠点となる学校 | ⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。 | (1) 地域の行事に積極的に参加し、地域との交流を深めます。 (2) 福祉施設、高齢者への支援活動を積極的に推進します。 | (1) 地域行事へ積極的に参加し、活動の充実、学習成果の発信に努めた。 (2) 福祉学習・実習で養われた知識と技術を生かし、高齢者との交流活動の充実を図ることができた。 | 地域行事に積極的に参加し、地域連携・学習成果のアピールに努める。 農業・福祉の融合を目指し、日頃の学習活動で培われた、知識・技術を高齢者との交流活動に生かせるよう展開する。 | 3 |
| | ⑨「機関・団体と連携した」教育を行います。 | (1) 地域の農業関連機関、道の駅、大学との連携を推進します。 (2) 養護学校との交流を通して、福祉・農業教育を推進します。 | (1) J A、普及所、道の駅、北翔大学と連携を図ることが出来た(継続)。 (2) 全学年の生徒が八雲養護学校との交流を実施することが出来た。 | 地域企業を含め外部機関との連携を模索し生徒の活躍の場を確保する。 交流事業の方向性の検討、内容の充実にも努める。 | 4 |
| V 地域防災を推進する学校 | ⑩「地域防災を推進する」教育を行います | (1) 地域及び学校防災マニュアルを基に、防災意識を高める教育を展開します。 | (1) 自然災害などを想定した対応について理解を深めると共に避難訓練を実施することが出来た。 | 非常時に対する心構えと状況を判断し、正しい行動ができるよう知識理解を深めると共に、訓練により、対応する力を育成する。 | 4 |